2 人口のうごき



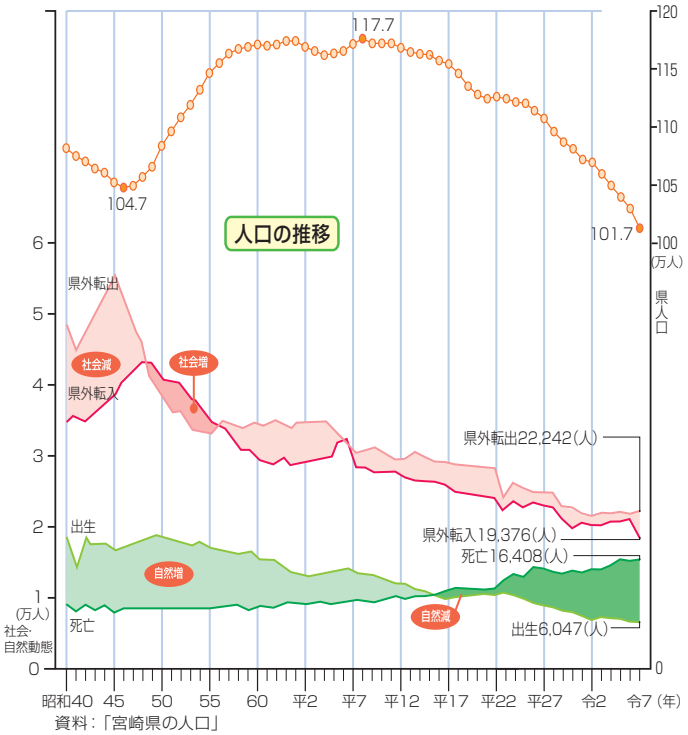
1 人口の動態

●本県の総人口は、昭和46年（104万7千人）を境に増加基調に転じ、転出数の大幅な減少などを背景に昭和50年代前半まで高い伸びを示しました。

●その後、人口増加率は低下を続け、県人口は、平成8年（117万7千人）をピークに減少傾向にあります。

●自然動態をみると、自然増減数（出生数－死亡数）は、出生数の減少に伴い、昭和55年以降は減少傾向にあり、平成15年には自然減に転じています。

●社会動態は、昭和56年以降、転出超過に転じた後、平成5～6年には転入と転出がほぼ同数となりましたが、平成7年以降、再び転出超過が続いています。



資料：「宮崎県の人口」

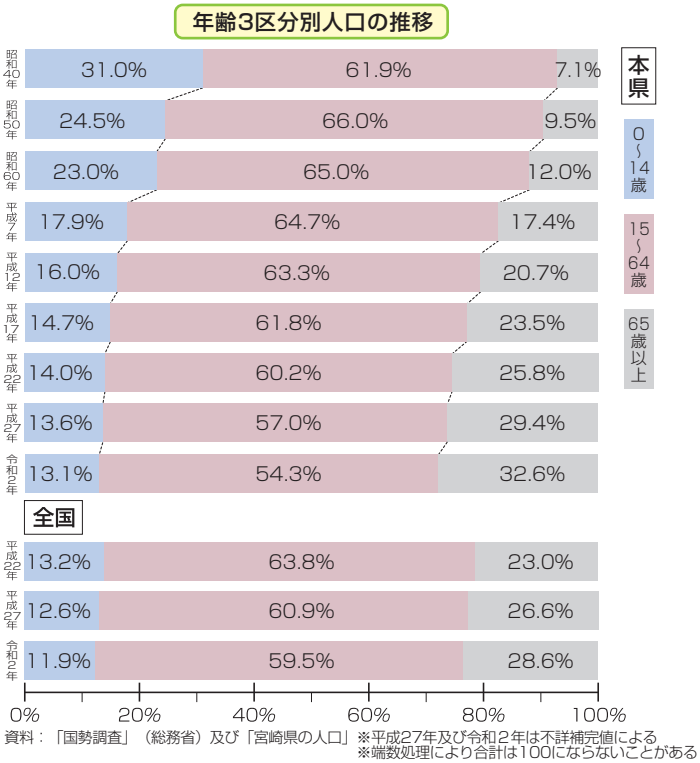
2 年齢（3区分）別人口の推移

●本県の65歳以上人口は、昭和40年の7万7千人から令和6年には35万1千人と約4.6倍に増加しております。

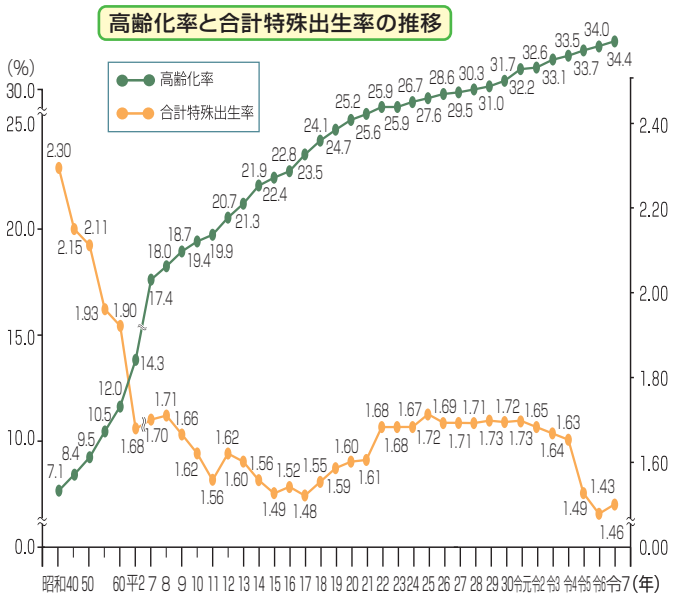
●平成8年以降は、65歳以上の人口割合が14歳以下の人口割合を上回る状況となっています。

●合計特殊出生率※は、1.46（令和7年）と全国の数値1.14を大きく上回っていますが、現在の人口を維持するために必要な水準2.07を下回っています。

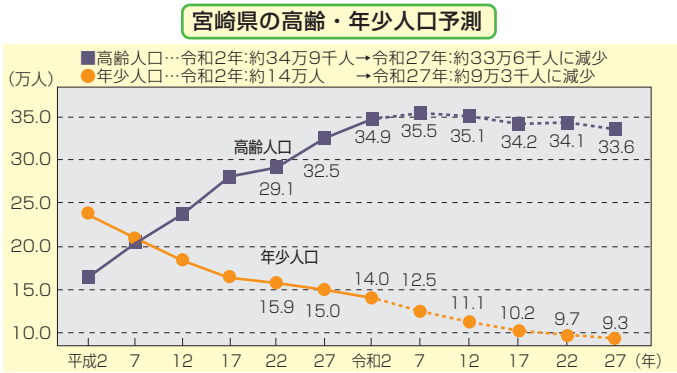
※合計特殊出生率：1人の女性が生涯に何人の子供を生むかを示す指標。



資料：「国勢調査」（総務省）及び「宮崎県の人口」※平成27年及び令和2年は不詳補完値による
※端数処理により合計は100にならないことがある



資料：「国勢調査」「宮崎県の人口」「人口動態統計」
令和７年の合計特殊出生率は概数



資料：令和2年までは「国勢調査」※平成27年及び令和２年は不詳補完値による
令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」